

「一年後わたしは夫のひびく音を聞いた（姉の妹）。」

「おとともちちからいらして」

「おとともちちからいらして」

「おとともちちからいらして」

「おとともちちからいらして」

「おとともちちからいらして」

軽口を叩き冗談を言い合う気力も余裕も失った。雨で頭を押さえつけられたように下を向き、なにも言えなくなった。記憶を無くした人間みたいな黙って足を動かさずにつづけた。車がうしろからふたりを追い抜いていった。ハイビームにしたヘッドライトをつけていた。晴れていればきっと見晴らしのいい急なカーブの途中だった。なんとなくだった。けど、なんとなくではなかった。あとから思えばこのタイミングしかなかった。うしろをふりかえったあなたと目が合った。カーブを曲がりきったところにあった林道に避難した。道に張り出した木の枝が雨よけになった。その分だけ雨の音が弱くなった。ずぶ濡れになったあなたの顔は暗くてよく見えなかった。わたしの背中を指差し、口を動かしている。う。め。ぼ。

「あのね。桃子」

浮かした腰をわたしは、すくとんと落とした。ガラスのローテーブルの上にはまだ石が掘り出したままの姿で置かれていた。そんな話し方だった。

「あなたに話さなければならぬことがあって」

2019年7月25日（木曜日）。優明花が失踪する前日。あなたは六本木のギャラリで開催されたトークイベントに参加していた。

詩人が5人。公開でディスカッションしたあと自作の詩を1つずつ朗読した。あなたはわたしと高尾山から縦走して陣馬山（じんばやま）に登ったとき、少し前を歩いていたインド系の家族のことを書いた詩を選んだ。

陣馬山の山頂でうどんを食べたあととはひたすら下りで民家もちらほらあった。家族の誰かがなにか見つければ足を止め、集合し、ひとしきり観察してからまた歩き始める。めちゃくちゃ寄り道しているのに常にわたしたちの先を歩いていた。その家族は柿の木があるとすると登り、もいでは食べてを繰り返していた。

「おとともちちからいらして」

「おとともちちからいらして」

製本のしかた

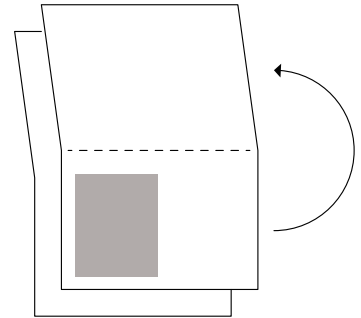
1.

プリンターで「**両面印刷**」を選択、
とじを「**長辺とじ**」に合わせます。



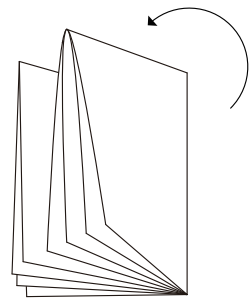
2.

表面（表紙タイトル側）を前にして、
印刷した順番に**重ねた後に**、
タテ半分に**山折**にします。



3.

表紙タイトルを左側にしたまま、
さらに**ヨコ半分**に**山折**にします。



4.

一度開いて**ヨコ長の見開き**にし、
上部をハサミで切って**完成**です。

